学生の確保の見通し等を記載した書類（目次）

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
（１）学生の確保の見通し ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
ア　現在までの充足状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
イ　入学状況把握のためのアンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
ウ　入学定員の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
（２）学生確保に向けた取組状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
ア　大学院進学説明会の開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
イ　奨学金制度の充実 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
ウ　学生納付金 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
エ　博士進学プログラムの設置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

２．人材需要の動向等社会の要請 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
（１）人材の養成に関する目的（概要） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
（２）人材需要の動向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
（３）現在までの大学院修了者の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

学生の確保の見通し等を記載した書類

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組

（１）学生の確保の見通し

ア　現在までの充足状況

①畜産科学専攻（博士前期課程）

現行の畜産科学研究科修士課程（畜産生命科学専攻，食品科学専攻，資源環境農学専攻）及び博士前期課程（畜産衛生学専攻）の入学定員の合計は 56 名であり，過去 5 年間の入学状況を表 1 に示す。平成 24 年度は東日本大震災の影響により，志願者数・入学者数が減少したが，その後は恒常的に志願者があり，ほぼ入学定員どおりの入学者を確保している。

表 1：過去 5 年間の入学状況

	H24	H25	H26	H27	H28	計	平均
入学定員	56	56	56	56	56	280	56
志願者数	53	71	61	68	65	318	63.6
入学者数	45	55	55	57	54	266	53.2
定員充足率	0.80	0.98	0.98	1.02	0.96	-	0.95

②畜産科学専攻（博士後期課程）及び③獣医学専攻（博士課程）

現行の畜産学研究科畜産衛生学専攻（博士後期課程）の入学定員は 7 名である。また，岩手大学大学院連合農学研究科の入学定員は 4 大学で 32 名，岐阜大学大学院連合獣医学研究科の入学定員は 4 大学で 20 名である。過去 5 年間の畜産衛生学専攻の入学状況及び両連合大学院の本学所属の入学者の状況を表 2～4 に示す。畜産衛生学専攻（博士後期課程）は，志願者数・入学者数は毎年変動があるものの過去 5 年間の入学者数の平均は 8.6 名と入学定員をやや超える状況である。また，岩手大学大学院連合農学研究科の入学者数(本学所属)の過去5年間の平均は9.4名，岐阜大学大学院連合獣医学研究科の平均は 4.8 名である。

表 2：畜産衛生学専攻（博士後期課程）の過去 5 年間の入学状況

	H24	H25	H26	H27	H28	計	平均
入学定員	7	7	7	7	7	35	7
志願者数	9	15	7	10	7	48	9.6
入学者数	9	12	7	10	5	43	8.6
定員充足率	1.29	1.71	1.00	1.43	0.71	-	1.23

表 3：岩手大学大学院連合農学研究科（本学所属）の過去 5 年間の入学状況

	H24	H25	H26	H27	H28	計	平均
志願者数	8	14	10	12	3	47	9.4
入学者数	8	14	10	12	3	47	9.4

表 4：岐阜大学大学院連合獣医学研究科（本学所属）の過去 5 年間の入学状況

	H24	H25	H26	H27	H28	計	平均
志願者数	8	4	2	5	7	26	5.2
入学者数	6	4	2	5	7	24	4.8

イ　入学状況把握のためのアンケート

平成 28 年 5 月に，畜産科学課程 3・4 年生，共同獣医学課程 5・6 年生，修士課程及び博士前期課程 1･2 年生を対象として，獣医・農畜産融合の教育研究を主要テーマとする新たな大学院畜産学研究科に関する「帯広畜産大学大学院畜産学研究科に関する学生アンケート」を実施した（資料 1 参照）。その結果の要点を以下に示す。

①畜産科学専攻（博士前期課程）に関する調査結果

畜産科学課程の学部学生に対して，新たな「畜産科学専攻（前期課程）」の教育・研究に興味があるか否かのという問いに対して，238 名のうち 148 名（62.2%）の学生から「興味がある」との回答が得られており，関心の高さが窺えた。

新設する「動物医科学コース」への興味を問う質問項目では，238 名のうち，123 名（51.7%）が「興味がある」と回答している。このうち「非常に興味があり，進学を考えたい」と回答した学生は 21 名であり，学生の進学希望も高いという結果を得た。また，新たな畜産科学専攻（博士前期課程）に興味を示した学生に対して，コース別の興味を質問したところ，「動物医科学コース」に対する興味が最も多い結果となった。

畜産衛生学コース（アンケート後に畜産衛生学位プログラムに変更）への興味を問う質問項目では，238 名のうち 103 名（43.3%）の学生から「興味がある」との回答が得られており，前身の畜産衛生学専攻を発展させた畜産衛生学位プログラムにおける取組についての関心の高さが窺える。

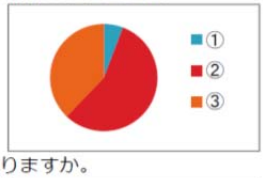
以上のアンケート結果を表 5 に示す。

表 5：畜産科学専攻（博士前期課程）に関するアンケート結果

設問3.　大学院修士（博士前期）課程についてお伺いします。

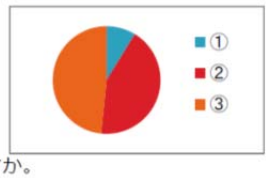
3-1）【畜産科学課程（学部生）】あなたは、新たな「畜産科学専攻」の教育・研究に興味がありますか。

1.　非常に興味があり、進学を考えたい	14 人	5.9%
2.　興味がある	134 人	56.3%
3.　興味が無い	90 人	37.8%



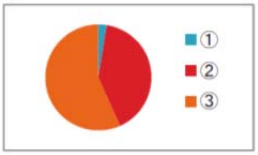
3-2）【畜産科学課程（学部生）】あなたは、新設の「動物医科学コース」に興味がありますか。

1.　非常に興味があり、進学を考えたい	21 人	8.8%
2.　興味がある	102 人	42.9%
3.　興味がない	115 人	48.3%



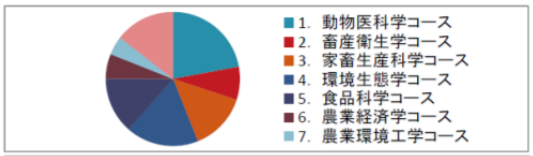
3-3）【畜産科学課程（学部生）】あなたは、「畜産衛生学コース」に興味がありますか。

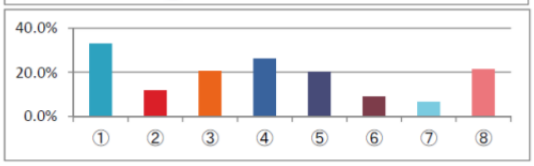
1.　非常に興味があり、進学を考えたい	6 人	2.5%
2.　興味がある	97 人	40.8%
3.　興味がない	135 人	56.7%



3-5）【畜産科学課程（学部生）】（設問3-1において1または2に回答した方にお伺いします）あなたは、どのコースに興味がありますか。2コース以内（1コースでも可）で選択してください。

1.　動物医科学コース	78 人	32.8%
2.　畜産衛生学コース	28 人	11.8%
3.　家畜生産科学コース	49 人	20.6%
4.　環境生態学コース	62 人	26.1%
5.　食品科学コース	48 人	20.2%
6.　農業経済学コース	21 人	8.8%
7.　農業環境工学コース	16 人	6.7%
8.　植物生産科学コース	51 人	21.4%





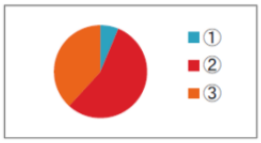
②畜産科学専攻（博士後期課程）及び③獣医学専攻（博士課程）に関する調査結果

アンケート対象者全員に対して，本学が独自の大学院博士課程を新設することに対する興味について質問したところ，332 名のうち 205 名（61.7%）の学生から「興味がある」との回答が得られており，このうち「非常に興味があり，進学を考えたい」と回答した学生は 21 名であった。このことから大学院博士課程に対する学生の関心の高さと進学意欲を確認することができた。このアンケート結果を表 6 に示す。

表 6：畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）に関するアンケート結果

設問4.　大学院博士（後期）課程についてお伺いします。
4-1）【全員】本学に独自の大学院博士課程が新設されることはどう思いますか。

1.	非常に興味があり、進学を考えたい	21 人	6.3%
2.	興味がある	184 人	55.4%
3.	興味がない	127 人	38.3%



ウ　入学定員の設定

「ア　現在までの充足状況」及び「イ　入学状況把握のためのアンケート」を踏まえると畜産科学専攻（博士前期課程）の入学定員は，現行の修士課程・博士前期課程の 56 名としても入学定員の確保は十分見込まれる。また，畜産科学専攻（博士後期課程）については，現行の畜産衛生学専攻（博士後期課程）の入学定員（7 人）と連合農学研究科の過去 5 年間の平均入学者数（9 人）を合わせて 16 人，獣医学専攻（博士課程）については，連合獣医学研究科の過去 5 年間の平均入学者数（5 人）とすることも一案である。

一方で本学は，農学・獣医学に関する本学独自の博士課程を新たに設置することから，教員一人当たりの学生数の少人数化，優秀な学生の確保等により大学院における教育研究の一層の質の向上に努める必要があると考えている。

このため，以下のとおり様々な視点から分析を行い，入学定員の検討を行った。

【優秀な学生確保に関する分析】

表 7 のとおり本学の大学院修士課程においては，入学者の約 80%を内部進学者が占めていることから，優秀な学生の確保を目的とした定員設定の一案として，学部卒業時の GPA（以下，学部 GPA）を考慮することが適当であると考えた。その主たる根拠は，第一に学部 GPA と優れた学業成果を収め，学生表彰を受ける大学院生や共同研究に参加する大学院生とには正の相関があること，第二に学部 GPA と大学院生の退学率とには，負の相関があることである。学生表彰を受ける大学院生の GPA 平均は 3.17，共同研究に参加する大学院生の GPA 平均は 3.30 と非常に高い。一方，退学率については，表 8 のとおり学部 GPA2.75 が分岐点となっており，学部 GPA2.75 以上と以下の学生とでは，退学率に約３倍の違いがあることがわかる。さらに，一般的に GPA の中央値は2.5であることから，学部GPA2.75以上の入学生は中間層より高い位置にあり，学部時期において一定の成績を収めた学生と言える。

以上のことから，内部進学割合（79.3%）と，分岐点の数値（GPA2.75 以上）を基

準に定員設定した場合，学部 GPA が 2.75 以上の内部進学者は平均して全体の 85.3%（表 9）であることから，学外進学者（56 名×0.207）＋学内進学者（56 名×0.793×0.853）≒入学定員（49 名）となる。この定員設定により，優秀な学生を確保するとともに，授業についていけないなどの理由による退学者数の低減が期待される。

表 7：過去 5 年間の内部進学割合

	H24	H25	H26	H27	H28	計	平均
入学者数	45	55	55	57	54	266	53.2
うち学内進学者数	35	40	47	47	42	211	42.2
内部進学割合	0.778	0.727	0.855	0.825	0.778	-	0.793

表 8：平成 24～平成 26 年度の学部 GPA と退学率

学部 GPA	退学率
2.75 未満	31.6%
2.75 以上	10.6%
大学院全体	13.9%

表 9：平成 24～28 年度の内部進学者の学部 GPA 分布

学部 GPA	3.5 以上	3.25 以上 3.5 未満	3 以上 3.25 未満	2.75 以上 3 未満	2.5 以上 2.75 未満	2.25 以上 2.5 未満	2 以上 2.25 未満	2 未満
入学者数	35	53	53	39	19	6	4	2
累積(上位から)	0.166	0.417	0.668	0.853	0.943	0.972	0.991	1.000

【入学者の質保証に関する分析】

大学院の学生の質を維持するためには，入学後の教育の質もさることながら，入り口である入学選抜試験において「相応の競争の原理」が働くことが重要である。「相応の競争の原理」には様々な考え方があるが，今回は全国の国立農学系大学院における志願倍率の平均値以上を目安に分析することとした。表 10 が全国の国立農学系大学院の過去６年間の志願倍率である。

表 1 より，畜産科学専攻（博士前期課程）の志願者数の平均値は 63.6 名である。次に，畜産科学専攻（博士後期課程）と獣医学専攻（博士課程）の志願者数については，より正確性を期すため，畜産衛生学専攻（博士後期課程）の学生が指導を受けた教員の畜産系と獣医系の比率（畜産系：獣医系＝1：2）に基づき按分し，両連合大学院の志願者数に加算することとした。表 2 より畜産衛生学専攻（博士後期課程）の志願者数の平均値 9.6 名を按分すると，畜産系 3.2 名，獣医系 6.4 名となる。それらの

人数を岩手大学大学院連合農学研究科と岐阜大学大学院連合獣医学研究科の志願者数の平均値 9.4 名と 5.2 名に加算すると，畜産系 12.6 名，獣医系 11.6 名となる。

これらの志願者数をもとに，各専攻において全国平均以上の志願倍率となる入学定員についてシミュレーションを行った（表 11～13）。この分析結果から，各専攻の入学定員は畜産科学専攻（博士前期課程）を 48 名以下，畜産科学専攻（博士後期課程）を 10 名以下，獣医学専攻（博士課程）を 7 名以下にすると，入学選抜試験において相応の競争原理が働き，学生の質を確保できると考えられる。

表 10：過去 6 年間の全国の国立農学系大学院における志願倍率

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	平均
修士課程	1.504	1.427	1.305	1.257	1.208	1.201	1.317
農学系博士課程	1.165	1.219	1.153	1.086	1.040	1.083	1.156
獣医系博士課程	1.881	1.438	1.391	1.312	1.403	1.433	1.476

（出典：大学ポートレート）

表 11：畜産科学専攻（博士前期課程）の定員シミュレーション

入学定員	56	54	52	50	48	46	参考
志願者数	63.6	63.6	63.6	63.6	63.6	63.6	全国平均
志願倍率	1.136	1.178	1.223	1.272	1.325	1.383	1.317

表 12：畜産科学専攻（博士後期課程）の定員シミュレーション

入学定員	15	14	13	12	11	10	参考
志願者数	12.6	12.6	12.6	12.6	12.6	12.6	全国平均
志願倍率	0.840	0.900	0.969	1.050	1.145	1.260	1.156

表 13：獣医学専攻（博士課程）の定員シミュレーション

入学定員	10	9	8	7	6	5	参考
志願者数	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	全国平均
志願倍率	1.160	1.289	1.450	1.657	1.933	2.320	1.476

【教育の質の維持・向上に関する分析】

上述の各種分析を踏まえ，本学研究科全体の入学定員バランスと入学後の教育の質

の維持・向上に関する分析を行った。現行の大学院修士課程，博士前期課程及び博士後期課程の定員の合計は 63 名である。博士前期課程を 56 名から 48 名に引き下げ，新たに設置する博士課程（獣医学専攻）及び博士後期課程（畜産科学専攻）の定員 15 名と合わせた全体の定員を現行と同じ 63 名とすることで，表 14 のとおり主指導教員 1 人当たりの学生数を低減し，教育の質を維持・向上することができる。

表 14：主指導教員 1 人あたり学生数の分析

【改組前の入学者数と主指導教員１人あたり学生数】

	入学者数（5ヶ年平均）	主指導資格	副指導資格	資格教員合計	主指導１人あたり学生数（A）
修士課程（３専攻） 畜産衛生学博士前期課程	53.2	70	17	87	0.760
合　計	53.2	70	17	87	0.760
畜産衛生学専攻博士後期課程	9	14	1	15	0.643
岩手大学連合農学研究科	9	35	19	54	0.257
岐阜大学連合獣医学研究科	5	19	4	23	0.263
合　計	23	68	24	92	0.388

入学定員を調整

【改組後の入学定員数と主指導教員１人あたり入学者数】

	入学定員数	主指導資格	副指導資格	資格教員合計	主指導１人あたり学生数（B）	改組前増減（B）－（A）
畜産科学専攻博士前期課程	48	70	17	87	0.686	
合　計	48	70	17	87	0.686	**▲ 0.074**
畜産科学専攻博士後期課程	10	43	19	62	0.233	
獣医学専攻博士課程	5	25	5	30	0.200	
合　計	15	68	24	92	0.216	**▲ 0.171**

これらの分析結果を基に，入学定員は畜産科学専攻（博士前期課程）を 48 名，畜産科学専攻（博士後期課程）を 10 名，獣医学専攻（博士課程）を 5 名とした。

（２）学生確保に向けた取組状況

ア　大学院進学説明会の開催

本学では，平成 25 年度より，年に 2 回（5 月・10 月），学部学生を対象とした大学院進学説明会を開催している。説明会においては，各専攻の概要と教育内容，修了生の進路状況，奨学金制度等の説明を行っている。参加者数は，平成 26 年度 95 名，平成 27 年度 70 名，平成 28 年度 89 名と，修士課程・博士前期課程の入学定員を大きく上回っており，関心の高さが伺える。

イ　奨学金制度の充実

本学では，修士課程・博士前期課程への進学を希望する本学の優秀な日本人学生を対象とした奨学金制度を設けている。この奨学金制度は，大学院入試試験の受験前に採用を決定することで，学生の進学意欲を高めている。留学生に対する経済支援制度については，修士課程・博士前期課程において「国際交流協定締結大学出身者に対する特別支援制度」，博士後期課程においては「外国人留学生特別支援制度」を設けており，採用者には入学料及び授業料の免除に加えて給付型奨学金を支給している。以上の奨学金制度は，今後拡充する方針である。

また，修士課程・博士前期課程学生を主な対象にティーチング・アシスタント(TA)として採用し，博士後期課程学生を対象にリサーチ・アシスタント(RA)として採用している。TA・RA は希望者全員を採用している状況である。

ウ　学生納付金

「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」により標準額が定められており，各国立大学法人は一定の範囲内で標準額以上の学生納付金を定めることができるが，本学は国立大学法人として教育の機会均等，優れた人材の確保等に配慮して国が定める標準額とする。

エ　博士進学プログラムの設置

畜産科学専攻（博士前期課程）において，学生の研究に対する探究心を深め，博士後期課程への進学へと導くためのプログラムを設置する。本プログラムは，以下の授業科目をすべて「A⁻」以上の成績で修得することを条件に，博士前期課程の 2 年次に博士後期課程の開講科目を先取りして履修（進学後に単位認定），博士後期課程に進学した際の奨学金給付等の優遇策を講じ，優秀な大学院生を博士前期・後期課程を通じて育成するものである。

授　業　科　目	単位	要件
博士前期課程各コースの特別研究Ⅱ	4	14 単位
English Communication for Science	2	
所属コース選択科目 3 科目	6	
アカデミックプレゼンテーション演習	2	

２．人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的（概要）

食中毒，家畜感染症，食品偽装等の「食の安全」を脅かす諸問題は，農場から食卓に至る様々なプロセスにおける負の要因の組み合わせによって引き起こされ，農学の特定分野の専門性のみでは根本的解決が困難になっている。また，世界人口増加に伴う食料確保，国境を越えて移動する食品等の安全確保，感染症の制圧，エネルギー・環境への配慮等，農学系人材の担う課題が世界各国で協調して取り組むべき地球規模にまで拡大している。さらに，国際市場の交易拡大，食と農のグローバル化を背景に，国際展開を図る食品関連企業等の国際安全基準の遵守，行政の検疫体制強化が求められ，食の安全安心対策を行使できる人材育成が急務となっている。これら現代社会の農学が直面する複雑かつ多様な課題に対応するため，農学系人材は，専門分野の高度な知識・技術に加えて，農場から食卓までに至る農学の幅広い知識・技術と世界動向・国際基準を見据えた国際通用力を兼ね備えた人材育成が急務となっている。

本設置計画は，帯広畜産大学が我が国唯一の国立農学系単科大学という強み・特色を生かし，既存の大学院組織を改編して獣医・農畜産融合の教育研究と国際通用力を持つ人材育成機能を強化し，現代社会の農学が直面する課題解決に貢献できる人材を育成するものである。

（２）人材需要の動向

平成 28 年５月に，学生の就職先，共同研究や受託研究等の相手先，地方自治体等を対象として，獣医・農畜産融合の教育研究を主要テーマとする新たな大学院畜産学研究科に関する「帯広畜産大学大学院畜産学研究科に関する企業アンケート」を実施した（資料 2 参照）。アンケート調査は 619 企業等に送付し，うち 329 社（53.2%）から回答を得たものである。以下に主要な要点と当該アンケート結果を示す（表 15）。

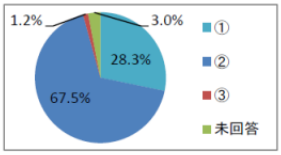
本学の大学院の再編計画については，315 社（95.8%）の企業が「社会ニーズに即した人材及び農学が直面する複雑な課題解決に貢献できる人材を育成するため，自身の専門分野に加えて農学の他分野を幅広く修得できるシステム（獣医・農畜産融合教育）を推進する」計画に賛同している。また，「ISO 等国際基準適応の教育環境・実習施設の活用，企業等の実務家教員による実践的な教育の充実，海外大学との教育・研究の交流推進により国際通用力のある人材を育成する」方針についても，317 社（96.4%）の企業が賛同している。

さらに，本設置計画における大学院が設置された場合の交流の可能性のついては，157 社（47.7%）の企業等が「積極的に修了生の採用・職員の再教育で交流したい」又は「共同研究等の実績を踏まえて修了生の採用・職員の再教育で交流したい」との回答を得た。

表 15：企業アンケートの結果

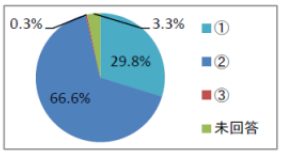
設問8.　本学では社会ニーズに即した人材及び農学が直面する複雑な課題解決に貢献できる人材を育成するため、大学院畜産学研究科の修士及び博士課程において、自身の専門分野に加えて農学の他分野を幅広く修得できるシステム（獣医・農畜産融合教育）を推進することを計画しております。この方針についてどう思いますか。

1.　大いに賛同できる	93	28.3%
2.　賛同できる	222	67.5%
3.　賛同できない	4	1.2%
未回答	10	3.0%



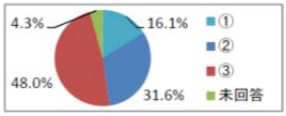
設問9.　さらに、大学院畜産学研究科の再編計画においては、ISO等国際基準適応の教育環境・実習施設の活用、企業等の実務家教員による実践的な教育の充実、海外大学との教育・研究の交流推進により国際通用力のある人材の育成を考えております。この方針についてどう思いますか。

1.　大いに賛同できる	98	29.8%
2.　賛同できる	219	66.6%
3.　賛同できない	1	0.3%
未回答	11	3.3%



設問11.　設問8-10のような大学院が設置された場合、貴社・貴機関との交流はあると思いますか。

1.　積極的に修了生の採用・職員の再教育などで交流したい	53	16.1%
2.　共同研究等の実績を踏まえてから修了生の採用・職員の再	104	31.6%
3.　特段の交流はないと思う	158	48.0%
未回答	14	4.3%



以上のアンケート結果により，本設置計画における人材育成方針に対する社会的ニーズが極めて高いこと，また，企業等における大学院修了生の雇用，本学大学院における社会人学び直しは十分見込まれると判断される。

（３）現在までの大学院修了者の推移

現行の本学畜産学研究科ならびに岩手大学大学院連合農学研究科，岐阜大学大学院連合獣医学研究科の修了者数について過去５年間の実績を示す。

博士前期課程（現行の畜産学研究科修士３専攻及び博士前期課程１専攻））の修了者（表 16）は，東日本大震災の影響により入学者が減少した平成 24～25 年度の影響により，平成 25～26 年度の修了者が例年に比して少ないものの，その他の年度においては毎年 50 名程度の修了生を輩出している。

表 16：畜産学研究科修士課程及び博士前期課程 修了者数（H23-H27）

修了年度	H23	H24	H25	H26	H27	合計（平均）	
修了者数	51	48	36	40	52	227	(45.4)
うち進学者数	10	9	4	8	9	40	(8)
うち就職者数	32	32	28	29	37	158	(31.6)

また，博士後期課程（現行の畜産学研究科博士後期課程，岩手大学大学院連合農学研究科，岐阜大学大学院連合獣医学研究科）の修了者数（表 17）は，３研究科の合計で毎年 20 名程度，過去５年間で 99 名の修了生を輩出している。

表 17：博士後期課程 修了者数・就職率 (H23-H27)

修了年度	H23	H24	H25	H26	H27	合計（平均）	
①帯広畜産大学大学院畜産学研究科							
修了者数	10	11	8	10	6	45	(9)
うち進学者数	1	0	0	0	0	1	(0.2)
うち就職者数	9	11	8	7	5	40	(8)
②岩手大学大学院連合農学研究科							
修了者数	5	7	6	6	9	33	(6.6)
うち進学者数	0	0	0	0	0	0	(0)
うち就職者数	4	7	3	5	5	24	(4.8)
③岐阜大学大学院連合獣医学研究科							
修了者数	3	2	8	5	3	21	(4.2)
うち進学者数	0	0	0	0	0	0	(0)
うち就職者数	2	1	7	4	2	16	(3.2)
①～③合計							
修了者数	18	20	22	21	18	99	(19.8)
うち進学者数	1	0	0	0	0	1	(0.2)
うち就職者数	15	19	18	16	12	80	(16)

≪資料目次≫

資料１－１　　畜産学研究科に関する学生アンケート結果

資料１－２　　畜産学研究科に関する学生アンケート様式

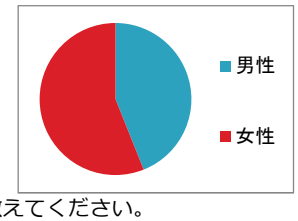
資料２－１　　畜産学研究科に関する企業アンケート結果

資料２－２　　畜産学研究科に関する企業アンケート様式

帯広畜産大学大学院　畜産学研究科に関する学生アンケート

設問1.　【全員】あなたの性別

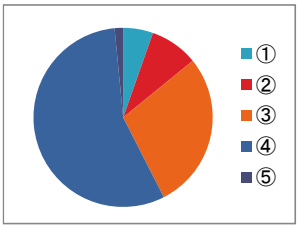
男性	146 人	44.0%
女性	186 人	56.0%



設問2.　進路についてお伺いします。

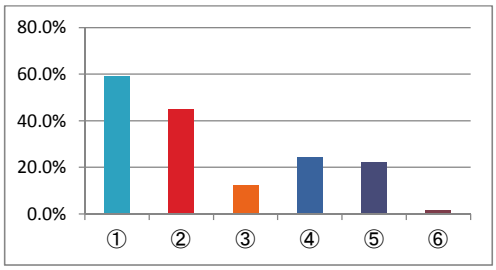
2-1)　【全員】あなたが現在考えている進路について教えてください。

1.　大学院博士（後期）課程まで進学したいと考えている	18 人	5.4%
2.　大学院修士（博士前期）課程まで進学したいと考えている	29 人	8.7%
3.　上記1，2と併せて就職等も検討中である	94 人	28.3%
4.　進学ではなく就職等を希望している	186 人	56.0%
5.　その他（	5 人	1.5%



2-2)　【全員】（設問2-1で1~3に回答した方にお伺いします。）大学院進学を考える上で、何を重視しますか。下記から選択してください。（複数選択可）

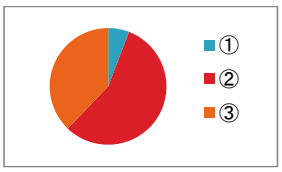
1.　研究内容・研究レベル	196 人	59.0%
2.　研究指導体制（教員・研究設備等）	149 人	44.9%
3.　キャリアパス支援の充実	40 人	12.0%
4.　奨学金、TA・RA等の経済的支援	81 人	24.4%
5.　国際的な教育・研究体制の充実	74 人	22.3%
6.　その他（	5 人	1.5%



設問3.　大学院修士（博士前期）課程についてお伺いします。

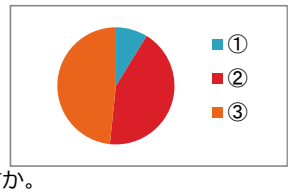
3-1)　【畜産科学課程（学部生）】あなたは、新たな「畜産科学専攻」の教育・研究に興味がありますか。

1.　非常に興味があり、進学を考えたい	14 人	5.9%
2.　興味がある	134 人	56.3%
3.　興味が無い	90 人	37.8%



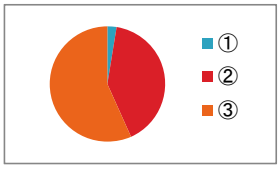
3-2)　【畜産科学課程（学部生）】あなたは、新設の「動物医科学コース」に興味がありますか。

1.　非常に興味があり、進学を考えたい	21 人	8.8%
2.　興味がある	102 人	42.9%
3.　興味がない	115 人	48.3%



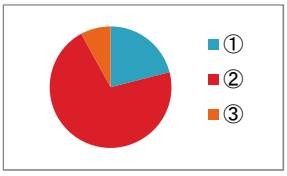
3-3)　【畜産科学課程（学部生）】あなたは、「畜産衛生学コース」に興味がありますか。

1.　非常に興味があり、進学を考えたい	6 人	2.5%
2.　興味がある	97 人	40.8%
3.　興味がない	135 人	56.7%



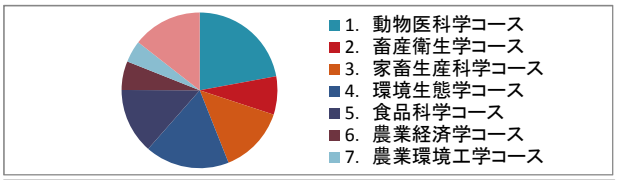
3-4)　【畜産科学課程（学部生）】新たな「畜産科学専攻」は、社会ニーズに即した実践力のある人材を育成するため、自身の専門性に加えて幅広い知識・技術を修得できるよう他コース開講科目の履修を奨励します。この取組についてどのように考えますか。

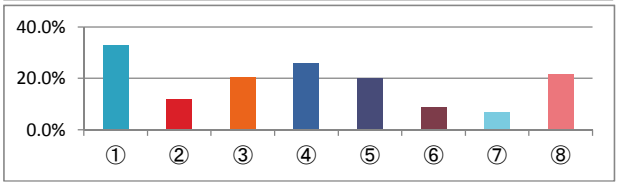
1.　重要であり、他コース開講科目も積極的に履修すべきである	50 人	21.0%
2.　余力があれば他コース開講科目も履修すべきである	169 人	71.0%
3.　他コース開講科目は履修する必要がない	19 人	8.0%



3-5)　【畜産科学課程（学部生）】（設問3-1において1または2に回答した方にお伺いします）あなたは、どのコースに興味がありますか。2コース以内（1コースでも可）で選択してください。

1.	動物医科学コース	78 人	32.8%
2.	畜産衛生学コース	28 人	11.8%
3.	家畜生産科学コース	49 人	20.6%
4.	環境生態学コース	62 人	26.1%
5.	食品科学コース	48 人	20.2%
6.	農業経済学コース	21 人	8.8%
7.	農業環境工学コース	16 人	6.7%
8.	植物生産科学コース	51 人	21.4%

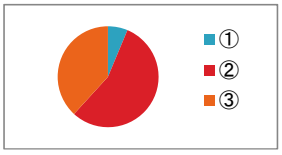




設問4.　大学院博士（後期）課程についてお伺いします。

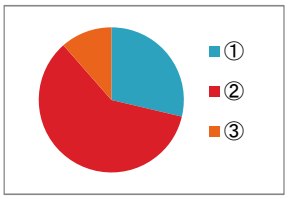
4-1)　【全員】本学に独自の大学院博士課程が新設されることはどう思いますか。

1.	非常に興味があり、進学を考えたい	21 人	6.3%
2.	興味がある	184 人	55.4%
3.	興味がない	127 人	38.3%



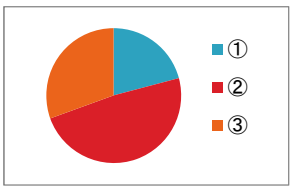
4-2)　【全員】博士（後期）課程においては、農学分野が直面する複雑な課題解決に貢献する人材を育成するため、自身の専門分野に加えて、「分野横断型選択科目群の配置」、「異分野複数教員による研究指導」等を通じて獣医・農畜産融合教育を推進します。この取組についてどのように考えますか。

1.	重要であり、自身の専門性に加えて、他分野の知識・技術も積極的に学ぶべきである	95 人	28.7%
2.	余力があれば、他分野の知識・技術も学ぶべきである	198 人	59.8%
3.	自身の専門分野のみ学ぶことができれば十分である	38 人	11.5%



4-3)　【全員】博士（後期）課程においては、国際通用力を有する人材育成のために、コーネル大学やウィスコンシン大学等のトップクラス大学での調査研究や海外機関でのインターンシップ等を単位化する等、大学院生の積極的な海外派遣を推進します。あなたは海外での教育・研究活動に興味がありますか。

1.	非常に興味があり、積極的に海外での教育・研究に取り組みたい	69 人	20.8%
2.	興味がある	161 人	48.6%
3.	興味がない	101 人	30.5%



最後に、何かご意見ございましたら、下記の記入欄にご記入ください。

帯広畜産大学大学院　畜産学研究科に関する学生アンケート

対象：〈畜産科学課程3・4年生〉〈共同獣医学課程5・6年生〉〈修士課程（博士前期課程）1･2年生〉

現在本学では、以下の事項を柱とする大学院畜産学研究科の再編計画を進めています。
本調査はこの再編計画に対する学生のニーズ等を把握するとともに、調査結果を再編計画に反映することを目的としております。学生の皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。

【大学院修士課程（博士前期課程）】

○　現在の4専攻を1専攻（畜産科学専攻）に包括し、同専攻に以下の8つのコースを設置する。

1. 動物医科学コース**（新設）**

※畜産学の知識を基礎に獣医学の基礎知識（基礎動物医科学、動物病態学等）を提供し、国立感染症研究所等の研究機関、検疫所、家畜保健衛生所等の公務員、製薬会社等の民間企業、大学等の教育・研究機関において動物に関わる様々な知識を社会に還元できる人材を育成する。

2. 畜産衛生学コース**（既存の畜産衛生学専攻を改編）**

※農畜産物の安全確保のためのHACCPシステム、食品製造・加工等マネジメント等の知識を提供し、国際水準の食品衛生管理に精通し、社会で即戦力となる人材を育成する。

3. 家畜生産科学コース（畜産学部・家畜生産科学ユニットと連結）
4. 環境生態学コース（畜産学部・環境生態学ユニットと連結）
5. 食品科学コース（畜産学部・食品科学ユニットと連結）
6. 農業経済学コース（畜産学部・農業経済学ユニットと連結）
7. 農業環境工学コース（畜産学部・農業環境工学ユニットと連結）
8. 植物生産科学コース（畜産学部・植物生産科学ユニットと連結）

○　各コースの履修学生全員に対して、当該履修コースでの専門分野に加えて他コース開講科目（分野横断型科目群）を提供し、農学の幅広い知識・視野を有する人材を育成する。

【大学院博士課程／博士後期課程】

○　現在、他大学と共同で運用している連合大学院を離れ、本学単独の獣医学専攻（博士課程）及び畜産科学専攻（博士後期課程）を設置する。

○　両専攻に「分野横断型選択科目群の配置」、「異分野複数教員による研究指導」、「米国先端大学研修プログラムの実施」等、獣医・農畜産融合の視点と世界動向・国際基準を踏まえた教育体制を整備し、高い専門性に加えて農学の幅広い知識・技術と国際通用力を持つ高度人材育成を推進する。

設問1.　【全員】あなたの性別・所属・学年を教えて下さい

男性　・　女性

畜産科学課程　・　共同獣医学課程
畜産生命科学専攻　・　食品科学専攻　・　資源環境農学専攻　・　畜産衛生学専攻

＿＿＿＿年

設問2.　進路についてお伺いします。

2-1）【全員】あなたが現在考えている進路について教えて下さい。

1. 大学院博士（後期）課程まで進学したいと考えている
2. 大学院修士（博士前期）課程まで進学したいと考えている
3. 上記1，2と併せて就職等も検討中である
4. 進学ではなく就職等を希望している
5. その他（　　）

2-2）【全員】（設問2-1で1~3に回答した方にお伺いします。）大学院進学を考える上で、何を重視しますか。下記から選択して下さい。（複数選択可）

1. 研究内容・研究レベル
2. 研究指導体制（教員・研究設備等）
3. キャリアパス支援の充実
4. 奨学金、TA・RA等の経済的支援
5. 国際的な教育・研究体制の充実
6. その他（　　）

設問3.　大学院修士（博士前期）課程についてお伺いします。

3-1）【畜産科学課程（学部生）】あなたは、新たな「畜産科学専攻」の教育・研究に興味がありますか。

1. 非常に興味があり、進学を考えたい
2. 興味がある
3. 興味が無い

3-2）【畜産科学課程（学部生）】あなたは、新設の「動物医科学コース」に興味がありますか。

1. 非常に興味があり、進学を考えたい
2. 興味がある
3. 興味がない

3-3）【畜産科学課程（学部生）】あなたは、「畜産衛生学コース」に興味がありますか。

1. 非常に興味があり、進学を考えたい
2. 興味がある
3. 興味がない

3-4）【畜産科学課程（学部生）】新たな「畜産科学専攻」は、社会ニーズに即した実践力のある人材を育成するため、自身の専門性に加えて幅広い知識・技術を修得できるよう他コース開講科目の履修を奨励します。この取組についてどのように考えますか。

1. 重要であり、他コース開講科目も積極的に履修すべきである
2. 余力があれば他コース開講科目も履修すべきである
3. 他コース開講科目は履修する必要がない

3-5）【畜産科学課程（学部生）】（設問3-1において1または2に回答した方にお伺いします）あなたは、どのコースに興味がありますか。2コース以内（1コースでも可）で選択してください。

1. 動物医科学コース
2. 畜産衛生学コース
3. 家畜生産科学コース
4. 環境生態学コース
5. 食品科学コース
6. 農業経済学コース
7. 農業環境工学コース
8. 植物生産科学コース

設問4.　大学院博士（後期）課程についてお伺いします。

4-1）【全員】本学に独自の大学院博士課程が新設されることはどう思いますか。

1. 非常に興味があり、進学を考えたい
2. 興味がある
3. 興味がない

4-2）【全員】博士（後期）課程においては、農学分野が直面する複雑な課題解決に貢献する人材を育成するため、自身の専門分野に加えて、「分野横断型選択科目群の配置」、「異分野複数教員による研究指導」等を通じて獣医・農畜産融合教育を推進します。この取組についてどのように考えますか。

1. 重要であり、自身の専門性に加えて、他分野の知識・技術も積極的に学ぶべきである
2. 余力があれば、他分野の知識・技術も学ぶべきである
3. 自身の専門分野のみ学ぶことができれば十分である

4-3）【全員】博士（後期）課程においては、国際通用力を有する人材育成のために、コーネル大学やウィスコンシン大学等のトップクラス大学での調査研究や海外機関でのインターンシップ等を単位化する等、大学院生の積極的な海外派遣を推進します。あなたは海外での教育・研究活動に興味がありますか。

1. 非常に興味があり、積極的に海外での教育・研究に取り組みたい
2. 興味がある
3. 興味がない

最後に、何かご意見ございましたら、下記の記入欄にご記入下さい。

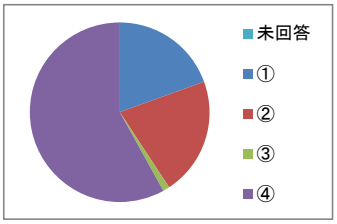
アンケートは以上です。
ご協力いただきありがとうございました。

帯広畜産大学大学院　畜産学研究科に関する企業アンケート

総回答数：　329　　送付数：　619　　回収率：　53.2%

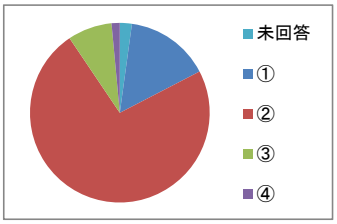
設問1.　貴社・貴機関では、これまでに獣医・農畜産系の大学院修了者を採用したことがありますか。

未回答	未回答	0	0.0%
1.　修士・博士問わず採用実績がある		64	19.5%
2.　修士のみ採用実績がある		70	21.3%
3.　博士のみ採用実績がある		4	1.2%
4.　採用実績はない		191	58.1%



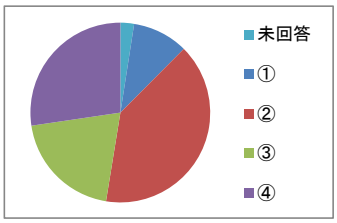
設問2.　（設問1で1-3に回答した方にお伺いします）過去5年間の採用数を教えてください。

未回答	未回答	3	2.2%
1.　0人		21	15.2%
2.　1～10人程度		101	73.2%
3.　10～50人程度		11	8.0%
4.　50人以上		2	1.4%



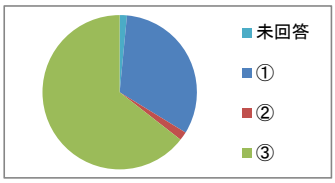
設問3.　貴社・貴機関において、獣医・農畜産学の専門的知識を有した人材は十分に確保されていると思いますか。

	未回答	8	2.4%
1.　十分確保している		33	10.0%
2.　十分ではないが一定数確保している		132	40.1%
3.　確保していないが、今後、確保したいと考えている		66	20.1%
4.　そのような人材は不要と考えている		90	27.4%



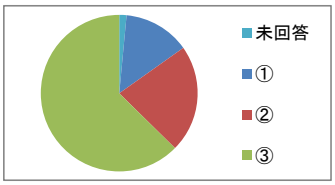
設問4.　貴社・貴機関において、獣医・農畜産学の専門的知識を有した人材の維持・確保増に向けてどのような対応をとる予定ですか。

	未回答	5	1.5%
1.　今後、そういう人材の採用を増やしたい		107	32.5%
2.　現在の職員等を大学院に派遣し、再教育したい		6	1.8%
3.　特段の対応はしない		214	65.0%



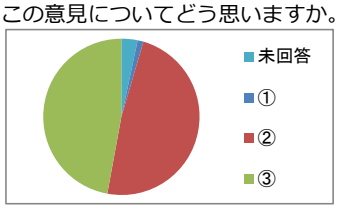
設問5.　貴社・貴機関では、これまでに職員等を再教育のため大学院に派遣したことがありますか。また、その必要性を感じたことがありますか。

	未回答	5	1.5%
1.　現在、再教育に派遣している。過去に派遣実績がある		45	13.7%
2.　派遣実績はないが、再教育の必要性は感じている		73	22.2%
3.　派遣実績はなく、再教育の必要性も感じていない		206	62.6%



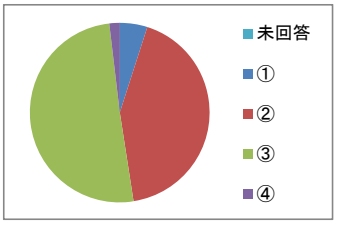
設問6.　博士課程の修了者は、専門性に固執・社会経験に乏しい、といった批判ありますが、この意見についてどう思いますか。

未回答	11	3.3%
1.　まったくそのとおりであると思う	4	1.2%
2.　ある程度あてはまると思う	159	48.3%
3.　そうは思わない	155	47.1%



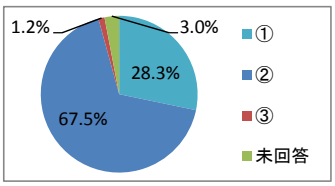
設問7.　（設問6で1または2に回答した方にお伺いします）その理由は何によると思いますか。

未回答	0	0.0%
1.　大学院教育のあり方	8	4.9%
2.　個人の資質	69	42.6%
3.　大学院教育、個人の資質の両方	82	50.6%
4.　その他（	3	1.9%



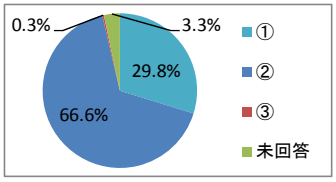
設問8.　本学では社会ニーズに即した人材及び農学が直面する複雑な課題解決に貢献できる人材を育成するため、大学院畜産学研究科の修士及び博士課程において、自身の専門分野に加えて農学の他分野を幅広く修得できるシステム（獣医・農畜産融合教育）を推進することを計画しております。この方針についてどう思いますか。

1.　大いに賛同できる	93	28.3%
2.　賛同できる	222	67.5%
3.　賛同できない	4	1.2%
未回答	10	3.0%



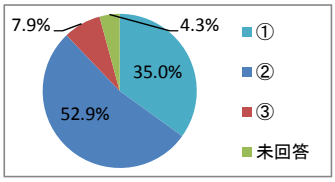
設問9.　さらに、大学院畜産学研究科の再編計画においては、ISO等国際基準適応の教育環境・実習施設の活用、企業等の実務家教員による実践的な教育の充実、海外大学との教育・研究の交流推進により国際通用力のある人材の育成を考えております。この方針についてどう思いますか。

1.　大いに賛同できる	98	29.8%
2.　賛同できる	219	66.6%
3.　賛同できない	1	0.3%
未回答	11	3.3%



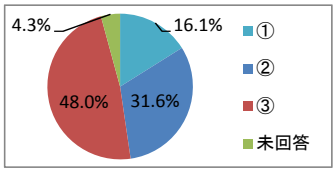
設問10.　本学では、近年の我が国における酪農・畜産業の振興の必要性、人間と動物の共存関係の高まり等を踏まえ、獣医師のみならず動物の健康や動物と社会との関係等を理解する人材育成が必要であるとの認識の下、大学院修士課程において、獣医師養成課程外の学士課程を卒業し、かつ、獣医学分野に興味がある学生を対象とした「動物医科学コース」を新設し、農畜産学の知識を基礎に、獣医学に関する基礎知識を提供し、動物に関する様々な知識を社会に還元できる高度専門職業人の養成を進めたいと考えております。このような教育プログラムを経た人材の重要性は高まると思いますか。また、貴社・貴機関において必要になると思いますか。

1.　重要性が高まり、必要になると考えている	115	35.0%
2.　重要性が高まるが、必要とはしない	174	52.9%
3.　重要性は高まらず、必要ともしない	26	7.9%
未回答	14	4.3%



設問11.　設問8-10のような大学院が設置された場合、貴社・貴機関との交流はあると思いますか。

1.　積極的に修了生の採用・職員の再教育などで交流したい	53	16.1%
2.　共同研究等の実績を踏まえてから修了生の採用・職員の再教育を検討したい	104	31.6%
3.　特段の交流はないと思う	158	48.0%
未回答	14	4.3%



帯広畜産大学大学院　畜産学研究科に関する企業アンケート

以下の設問に○を付けて御回答ください。

設問1.　貴社・貴機関では、これまでに獣医・農畜産系の大学院修了者を採用したことがありますか。

1. 修士・博士問わず採用実績がある
2. 修士のみ採用実績がある
3. 博士のみ採用実績がある
4. 採用実績はない

設問2.　（設問1で1-3に回答した方にお伺いします）過去5年間の採用数を教えて下さい。

1. 0人
2. 1～10人程度
3. 10～50人程度
4. 50人以上

設問3.　貴社・貴機関において、獣医・農畜産学の専門的知識を有した人材は十分に確保されていると思いますか。

1. 十分確保している
2. 十分ではないが一定数確保している
3. 確保していないが、今後、確保したいと考えている
4. そのような人材は不要と考えている

設問4.　貴社・貴機関において、獣医・農畜産学の専門的知識を有した人材の維持・確保増に向けてどのような対応をとる予定ですか。

1. 今後、そういう人材の採用を増やしたい
2. 現在の職員等を大学院に派遣し、再教育したい
3. 特段の対応はしない

設問5.　貴社・貴機関では、これまでに職員等を再教育のため大学院に派遣したことがありますか。また、その必要性を感じたことがありますか。

1. 現在、再教育に派遣している。過去に派遣実績がある
2. 派遣実績はないが、再教育の必要性は感じている
3. 派遣実績はなく、再教育の必要性も感じていない

設問6. 博士課程の修了者は、専門性に固執・社会経験に乏しい、といった批判ありますが、この意見についてどう思いますか。

1. まったくそのとおりであると思う
2. ある程度あてはまると思う
3. そうは思わない

設問7. （設問6で1または2に回答した方にお伺いします）その理由は何によると思いますか。

1. 大学院教育のあり方
2. 個人の資質
3. 大学院教育、個人の資質の両方
4. その他（　　）

設問8. 本学では社会ニーズに即した人材及び農学が直面する複雑な課題解決に貢献できる人材を育成するため、大学院畜産学研究科の修士及び博士課程において、自身の専門分野に加えて農学の他分野を幅広く修得できるシステム（獣医・農畜産融合教育）を推進することを計画しております。この方針についてどう思いますか。

1. 大いに賛同できる
2. 賛同できる
3. 賛同できない

設問9. さらに、大学院畜産学研究科の再編計画においては、ISO等国際基準適応の教育環境・実習施設の活用、企業等の実務家教員による実践的な教育の充実、海外大学との教育・研究の交流推進により国際通用力のある人材の育成を考えております。この方針についてどう思いますか。

1. 大いに賛同できる
2. 賛同できる
3. 賛同できない

設問10. 本学では、近年の我が国における酪農・畜産業の振興の必要性、人間と動物の共存関係の高まり等を踏まえ、獣医師のみならず動物の健康や動物と社会との関係等を理解する人材育成が必要であるとの認識の下、大学院修士課程において、獣医師養成課程外の学士課程を卒業し、かつ、獣医学分野に興味がある学生を対象とした「動物医科学コース」を新設し、農畜産学の知識を基礎に、獣医学に関する基礎知識を提供し、動物に関する様々な知識を社会に還元できる高度専門職業人の養成を進めたいと考えております。このような教育プログラムを経た人材の重要性は高まると思いますか。また、貴社・貴機関において必要になると思いますか。

1. 重要性が高まり、必要になると考えている
2. 重要性が高まるが、必要とはしない

3.　重要性は高まらず、必要ともしない

設問11.　設問8-10のような大学院が設置された場合、貴社・貴機関との交流はあると思いますか。

1.　積極的に修了生の採用・職員の再教育などで交流したい
2.　共同研究等の実績を踏まえてから修了生の採用・職員の再教育を検討したい
3.　特段の交流はないと思う

最後に、何か御意見ございましたら、下記の記入欄に御記入下さい。

アンケートは以上です。
御協力いただきありがとうございました。